

Clinicopathological characteristics of non-functioning cystic pancreatic neuroendocrine tumors

中島, 陽平

<https://hdl.handle.net/2324/2236118>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：中島 陽平

論 文 名：Clinicopathological characteristics of non-functioning cystic pancreatic neuroendocrine tumors

(嚢胞変性を伴う分化型非機能性膵神経内分泌腫瘍に関する臨床病理学的検討)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

嚢胞変性を伴う膵神経内分泌腫瘍 (PanNETs ; pancreatic neuroendocrine tumors) の生物学的特徴には不明な点が残っている. この研究の目的は, 嚢胞変性を伴う非機能性 PanNETs (NF-PanNETs ; non-functioning PanNETs) の臨床病理学的特徴を明らかにすることである. NF-PanNETs に対し治癒切除を行った 75 例の患者を後方視的に検討した. 嚢胞変性を伴うものと伴わない充実性 PanNETs の臨床病理学的背景を比較検討した. 免疫組織化学染色を用いてソマトスタチン 2 受容体 (SSTR-2 ; somatostatin 2 receptor) 発現についても検討した. 嚢胞変性を 14 例に認めた (19%). 嚢胞変性を伴う PanNETs は充実性のものと比較して, 男性の比率が有意に高く (79% vs. 44%, $P < 0.05$), 腫瘍径が有意に大きかった (25mm vs. 17mm, $P < 0.01$). リンパ節転移の頻度 (14% vs. 10%, $P = 0.64$), 肝転移の頻度 (7% vs. 3%, $P = 0.54$), 5 年無再発生存率 (86% vs. 86%, $P = 0.29$) に有意差を認めなかった. SSTR-2 発現率は嚢胞変性を伴う PanNETs で有意に高かった (100% vs. 70%, $P < 0.01$). 結論として嚢胞変性を伴う PanNETs は充実性のものと比較して有意に大きかったが, 切除後の予後に差を認めなかった. 嚢胞変性を伴う PanNETs の診断と治療にソマトスタチン受容体シンチグラフィーやソマトスタチンアナログが有用な可能性が示唆された.